



寒風山林野火災



秋田駐屯地の「動と静」

秋田駐屯地（駐屯地司令 荒巻1佐）は、平成30年4月21日、秋田県の災害派遣要請を受け、寒風山（秋田県男鹿市）の林野火災における災害派遣に対応した。幸い、林野火災そのものは早期に鎮火され、人的被害も無く、主力出動に至る程の被害は発生しなかった。

秋田駐屯地は当時、地元振興会等との共催で、駐屯地内において「春のふれあい祭り」を開催している最中であった。

多くの来場者に恵まれ賑わいを見せる駐屯地内において、秋田駐屯地は、荒巻駐屯地司令を核心とし、決して慌てることなく直ちに初動対処部隊を準備させ、現地及び県庁に連絡幹部を派遣し、また、派遣可能人員を迅速に把握し、じ後の派遣行動に備えた。

寒風山の林野火災は鎮火が確認され撤収したが、その後まもなく大館市においても林野火災が発生した。災害派遣要請は無かったものの、何時でも対応できるように駐屯地は引き続き情報収集に努め、鎮火が報告されるまで厳戒態勢を継続した。

秋田駐屯地は、ふれあい祭りが大盛況で幕を閉じた裏側においても、決して自衛官であることの本分を忘れることなく、二度の林野火災にも迅速確実に対応した。





北海道胆振東部地震



荒波を乗越えて

第357施設中隊及び第105施設直接支援大隊 秋田派遣隊は、伊藤曹長以下10名をもって、平成30年9月6日、北海道胆振東部地震へ災害救助活動のため、台風の猛威が冷めやらぬ暑さの中、秋田駐屯地より被災地へと向かった。

秋田駐屯地から派遣された部隊は、5両の車両をもって同日午後4時半に秋田駐屯地を出発し、仙台港から海上自衛隊の輸送艦と防衛省チャーターの民間船舶に分乗して苫小牧港に前進した。北海道到着後、北千歳駐屯地を拠点に主に厚真町幌内地区において油圧ショベルによる道路啓開作業に従事し、土砂崩れにより不通となっていた道路の復旧に寄与した。

約11日間の災害派遣活動を終えた秋田派遣隊は、9月18日朝、秋田港に帰港した。

唯一、陸士隊員として参加した第357施設中隊の石垣士長は、「今回の災害派遣に参加し、改めて自衛官としての重責を自覚した。施設科隊員としての誇りをもって引き続き任務に従事していきたい。」と話した。

秋田駐屯地として、北海道胆振東部地区の一日も早い復興を願う。





台風15号、19号



9月の台風15号、そして10月の台風19号。日本列島に多くの爪あとを残した風水害は、幾日たってもその存在感を示し続けています。各地で様々な被害が発生する中、秋田駐屯地に所在する各部隊は各々の災害派遣命令を受け、求められた被災地へと前進していきました。

その後、駐屯地所在の各部隊は約一ヶ月半の間、千葉県成田市及び多古町、岩手県宮古市、福島県郡山市において災害派遣活動を行いました。





令和豪雪災害派遣



秋田駐屯地（駐屯地司令 五十嵐 1佐）は、1月5日秋田県知事から災害派遣要請を受け、豪雪により特に大きな被害を受けた県内陸南部の各自治体に向け、部隊を派遣した。

新年の秋田県は、年の瀬の頃より予想されていた大雪が、想像をはるかに超える規模で訪れた。特に県内陸南部の積雪は平年の約四倍を記録し、各自治体の除排雪能力は早期に限界を迎えた。県は直ちに災害対策会議を実施するとともに自衛隊への災害派遣を要請した。駐屯地は5日に横手市、翌6日に湯沢市及び羽後町、8日には東成瀬村と、計4市町村への要請を受理しそれぞれの地域に部隊を派遣した。大雪による災害派遣は平成18年以來であり、多くの若手隊員にとっては未知の任務であったが、積雪寒冷地で過ごしてきた経験に加え、幾多の任務をこなしてきた先輩たちの経験に裏打ちされた指導・先導を受けることにより、部隊の全勢力を上げての迅速確実な活動を可能にした。

現地に到着し、要請された雪下ろし及び除排雪任務に臨む隊員たちの前には想像を超える積雪が待っており、対象の家屋や建造物に近付くことさえ阻んだ。やっとたどり着いても、屋根等に積み上がった雪は高難易度の雪山登山のように威容を示し、無計画に除排雪すれば事故が起きるのは明白であった。隊員たちは、このような状況下でも知恵を出し合い、安全と効率を両立させ、延べ5日間に及んだ災害派遣任務を完了した。



出発風景



木造校舎(栄小学校)での除雪作業 1



木造校舎(栄小学校)での除雪作業 2



下からの雪下ろし



家屋本体を保護しながらの除雪



勾配のきつい茅葺屋根の除雪